

モノをたいせつに

～「つくる責任つかう責任」を考える～



地球2.9個分。これは世界の人々が日本人と同じ生活をしたときに必要な地球の数です。私たちの便利で快適な毎日は、実は将来世代の分の自然の恵みを消費することで成り立っているのです。

7エスディー・ zeroesから17までの特集は「モノをたいせつに」。SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」に焦点を絞り、市内企業や市民の皆さんの取り組みを通じて、未来のためにできることを考えていきましょう。

まずは市内アパレル企業のニィニの取り組みから紹介します。



経験豊富な11人がデザイン画を基に型紙の制作、裁断、縫製などを行っています。1階が店舗、2階がアトリエのため、製作陣も直接お客さんの声を伺うことで理想の1着が仕上がります

—廃棄が多いこのアパレル業界から 地球に、人に優しいものづくりを広めたい—

次なる転機が訪れたのは平成26年のこと。社屋建替えでやむなく4つの反物を廃棄するなか、同時期に公開された廃棄衣料が題材のドキュメンタリー映画(※)で、アパレル業界の負の面を目の当たりに。

アパレル業界から未来を変える一歩を

保坂さんたちがリメイクを手がけ始めたのは13年前。ある常連客の「母の着物、どうか洋服にできないかしら」のひと言がきっかけでした。リメイクや着物を扱った経験がなかったため、お断りしたものの、このままでは手放さずしてしまうのではと、心が揺れ動きます。その後もお客さんと同様のリメイクの依頼が…。お客さんと接する

「きれいに着飾るための洋服で世界を汚している」。自身も環境汚染に加担しているという罪の意識が募りました。そうしたなか、世界で広がり始めたSDGs(10の目標12「つくる責任つかう責任」の

オリジナルブランドを立ち上げ、日本では数少ない企画・デザインから販売までを1社で行える会社です。古さを感じさせないデザインと着心地の良さが特徴のその服は、長く着られると評判です。

なかで気づかされたのが、こうした服はただの「物」ではなく、家族の楽しい時間が詰まっていたいせつな「思い出」ということでした。一念発起し、まずは毛皮のコートにチャレンジ。専務でもある母の私物を何着もばらし、構造を調べるところから縫い方すら違うため、試行錯誤すること9か月。ニイニが培ってきた技術を結集し、デザインや着心地にもこだわったケープやバッグとしてよみがえらせます。その出来に喜ぶお客さんの姿は、保坂さん自身の喜びに。

※ザ・トゥルー・コスト/大量生産・大量消費で服が安くなる一方、劣悪な環境で作る人や自然が→



着物を前にリメイク後のデザインをイメージする保坂さん(完成後は右下)

—次世代を思うものづくりを— 捨てないアパレルを目指して



着物をリメイクして洋服に

環境に大きな負荷を与える衣服の問題

皆さん、「衣服ロス」という言葉をご存じですか。まだ食べられる食品が廃棄される、「食品ロス」と同様の問題が衣服にもあるのです。日本では1年間で供給される約29億着のうち、約15億着が売れ残り、その多くが新品のまま廃棄されています。また、ファスト

ファッションの台頭により供給量が増加する一方、年々安くなり、気軽に買われ、気軽に廃棄される傾向にあります。そもそも、衣服は作る際に大量の水を使用し、二酸化炭素を放出する上、廃棄の際は焼却処分されるため、環境に大きな負荷を与えています。

古着に新たな命を吹き込みいつまでも

理念は「捨てないアパレル」。業界の現状に危機感を抱き、行動に移しているのが、株式会社ニイニ(塚越5丁目)です。取締役であり、デザイナーでもある保坂郁美さんを中心

心に、3年前からセミ・オーダーとリメイクを柱とした事業を展開しています。昭和58年に婦人服の縫製工場として創業したニイニは、平成15年にセミ・オーダーの

→払う代償は飛躍的に上昇し、服に本当のコストを払っているのは誰かという問題を提起した作品

地産地消の家づくりで森を守る

(上)木のぬくもりが感じられるリビング (左下)住宅の柱などに西川材を使用



(右下)飯能にある森。伐採と同時に植林する「元気な森づくり」を通じて、二酸化炭素削減に取り組んでいます

注文住宅メーカー
— (株)高砂建設 —
中央1丁目
よしまつ りみあき
吉松 史章 さん
社長室広報課リーダー



「人」にやさしく、地球にやさしく、そして50年後も資産として価値の残る家」の理念の下、私たちは省エネ・健康づくりをテーマに家づくりを行っています。構造材で使っているのは県産の良質なヒノキ「西川材」。地産地消の促進とともに適切な伐採、使用分の3倍の木を植林することで「育てる」、「使う」の循環を作り、環境保全につなげています。木は二酸化炭素をため込み、製品化された後も空気中に戻さないため、木造住宅の提供は、地球温暖化対策につながるといわれています。これからも自然素材にこだわった活動を通じて、次世代に受け継がれる住環境を提案し続けます。

将来を担う子どもにも考える機会を



(上)見学に来た学童の子どもたち(9月9日)。古くなったミンクの毛皮のコートをリメイクしたバッグを手に、「動物の毛皮が使われてかわいそうだけど、捨てられるのはもっとかわいそう。長く使ってもらえたらいいね」と話していました(左)1着の服を作る大変さを知るとともに、大事に着ていくという気持ちが芽生えたようです

「あのときのきらめきを永遠のきらめきへ」をモットーに、1社完結の強みを生かし製作スタッフもお客さんに寄り添う丁寧なもののづくりは、徐々に信頼と知名度を上げ、これまでに生まれ変わった服は250点以上にも及びます。

生産者も消費者も先を見据えた行動を

自ら理想を追い求める一方、保坂さんには、お客さんにも「つかう責任」について考えてほしいとの願いがあります。服の原料となる資源や作ってくれた人に感謝すること、安い服を使い捨てせず、良い服を長くたいせつに着ることを伝えるため、講演会や催しを開催。また、子どもへの教育を重視し、3年前から塚越小学校の児童を職場見学に招き、ときには市外の学校にも出向き、課外授業を行います。

こうした取り組みが評価され、昨年には埼玉県主催の女性起業家を支援するビジネスプランコンテストで最優秀賞を受賞。今後は同じ志を持つ企業との商品企画など、更なる展開を計画しています。「ものづくりには、ほんものの命を生み出すような覚悟が必要です。同様に物が天寿を全うできるように、つかう側も真摯に向き合わなければなりません」と語る保坂さん。互いに真剣に考え、行動できる日を目指し、挑戦は続きます。

Case2 市内企業
つくる責任

他にもさまざまな取り組みが蔵で進行中！ 創意工夫で持続可能な開発を推進

レンタルおしぼり
— (株)東京すずらん —
錦町2丁目
いけの や ゆきえ
池ノ谷 幸枝 さん
総務部部长

リユース商品のおしぼりを提供する私たちは、環境への関心が高く、長年取り組みを実践しています。例えば節水効果の高い洗濯機を使い水や電気・ガス、洗剤を3分の1程度減らしています。近年力を入れているのが用途に合った商品の提供です。我が社独自に品質を「高い」と「通常」の2つに設定。顧客と品質に応じた使い方を約束することで、汚れの程度が少ないおしぼりの回収が実現し、洗濯作業の効率化による環境負荷減(※)につなげているほか、品質への高い満足度も得ています。提供側と利用側の責任を明確にしたことで、両者にメリットがある本事業を今後も展開していきます。

高品質製品と環境負荷減を両立



(左下)12槽からなる連続式洗濯機。水を循環させ、きれいなすすぎ水を再利用するなど効率化を図っています

(上)お客様のために心をこめた製品を提供 (右下)検品包装は手作業で実施

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS		

SDGs(Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」)とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人取り残さないことを目指し、全世界が取り組む普遍的な目標として、日本も積極的に取り組んでいます。私たちも明るい未来を実現するため、一人ひとりができることから取り組んでいきたいと思います。



Interview

人ごとだと思わずに
自分の生活に5Rを

中央小学校 教頭
渡部 健 さん

学習指導要領に持続可能な社会の創り手を育成することが盛り込まれているように、現代を生きる全ての人に未来への責任が求められています。今回の授業では、児童が5Rを知識として習得するだけでなく、何をすべきか、何ができるのかを考えることで、自身のこととして捉えることができたのではないのでしょうか。今の選択で未来は変えられます。ぜひ、これからの生活に生かし続けてほしいですね。

(上)順番もたいせつな5R：2組 (下)身近な5Rを考える：1組



未来のために
できることって
何があるんだろう

Case3 中央小学校
つかう責任

5つの“R”で明るい未来を

物をたいせつにする学習を通して、SDGsについて考えることは、これからの時代を築く子どもたちに欠かせません。ここでは、家庭科の授業を通じて理解を深めている児童の様子を紹介します。

使わない物はごみですか

「机の中がきれいだと気持ちいいし、物をなくす心配も減るね」。これは9月から10月にかけて行われた中央小学校5年生の家庭科のひとつです。計4時間の整理整頓の授業で、その重要性だけでなく、地球のために今できることやその先の未来について学ぶ子どもたちの姿がありました。

5Rで持続可能な社会へ

世界で家庭ごみの量が4番目に多く、その多くを再利用せずに焼却する日本。今後もごみが増え、資源が少なくなると、今の快適な生活はできません。そこで鍵となるのが「5R」。リフューズ、リデュース、リユース、リペア、リサイクルの5つ(左囲み)です。

一人ひとりができること

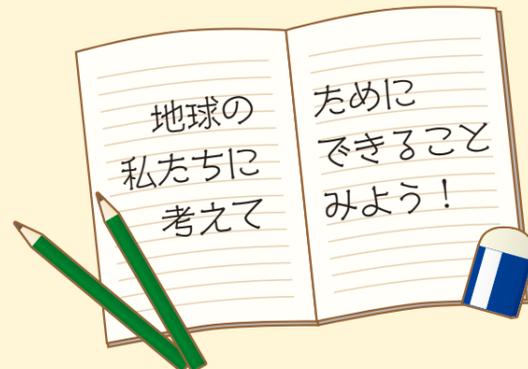
先生から5Rは一人ひとりが実践できると教わると、ある子が「空き缶を分別していただきます」と元氣よく発言します。しかし、リサイクルは資源に戻すために多くのエネルギーを使うので、5Rの中でも優先度は最下位。他にもっとすべきことがあるのでは。そこで子どもたちは、家庭で行っていることを話し合ったり、

開発途上国の人々の生活スタイルを見たりしながら、5Rにつながる行動を研究。自分たちにできることを考え、まとめ上げていきました。授業の最後、先ほどまで捨てられようとしていた紙切れがメモ用紙として再び子どもたちの机へ。その一歩は小さいけれど、たいせつな一歩。「つかう責任」の意識が生まれたその瞳には、明るい明日が映ることでしょう。

今日からできる5R

- リフューズ Refuse**
 - ごみになる物もらわない
 - マイバッグを持参し、レジ袋をもらわない
 - 過剰包装は断る など
- リデュース Reduce**
 - むだをなくしごみを減らす
 - 食品は必要な分だけ買う
 - 詰め替え用品を積極的に利用する など
- リユース Reuse**
 - 繰り返し使う
 - 不用品を別の用途で利用する
 - 使わなくなった物を他の人に譲る など
- リペア Repair**
 - 修理して使う
 - 壊れたら買い替え前に修理することを検討する
 - 服や靴下の穴は繕う など
- リサイクル Recycle**
 - 再生資源に戻す
 - 資源ごみを分別する
 - 生ごみを堆肥化する など

※上から優先度の高い順番に掲載



おもちゃの病院

診療日／原則第3日曜日
午後1時半～3時
ところ／下蔵公民館 (☎441・1560)
診療内容／壊れたおもちゃや傘などの治療 ※その場で治療できない場合は入院となります
診療代／笑顔と「ありがとう」の声



①「これならすぐに治るよ。だいじょうぶ」。大好きなミニカーを心配そうに見つめる男の子にお医者さんが優しく声をかけます ②おもちゃのほかに傘や時計なども治療 ③電池を使うおもちゃもお手のもの ④「治してくれてありがとう」と手を振る姿に作業の疲れも吹き飛びます ⑤年間の診療数は約100件に上ります

おもちゃドクター

もうだいじょうぶ
体調悪くなったら
また連れておいで



子どもたちに物と
思い出を大事にする心を

Case4 地域の皆さん
つかう責任

—おもちゃの病院—



お願いした男の子

どうもありがとう
これからはもっと
大事にするからね

まちのおもちゃドクター
大量生産・大量消費が問題となるなか、市内には45年前から壊れたおもちゃを直す催しがあります。その名も「おもちゃの病院」。「子どもに物を大事にする心を」との願いから始まり、今では月1回、下蔵公民館で30代から80代まで7人のおもちゃのお医者さんが、「笑顔とありがとうの声」を診療代に治療に当たっています。
思い出の品をいつまでも
この日も、体調を崩したおもちゃを連れて子どもたちが来院してきました。医師の皆さんは、おもちゃの容体を聞いてカルテに記入。ドライバなどの医療器具を巧みに操り治療に当たります。重症患者は入院することもあります。多くはすぐに完治し、みんなの下へ戻っていきます。
おもちゃは思い出の詰まった宝物。治ったときの感激はきっと子どもたちの心に刻まれ、「これから大事に」との思いが育まれることでしょう。

受け継がれるおもちゃに

定年後、おもちゃドクターを始めて10年。満面の笑みからの「ありがとう」の言葉がいちばんの薬ですね。親が子に買ったおもちゃをその孫が治りに来たときは、ぜひ長くたいせつにしてほしいとの思いから、特に力が入ります。



さとうとくい
佐藤 徳一さん
塚越5丁目

買い替えられない思い出

治していただいたのはパンダのぬいぐるみ。これは3年前に息子が初めて行った上野動物園でシャンシャンに大興奮した帰りに買った物です。これからもいっしょに楽しい時間を過ごしてたくさん思い出を作ってほしいですね。



はしもとかなみ
橋本 香奈美さん
中央2丁目

～SDGsと連携して施策を推進～
循環型で環境にやさしいまちづくり



花いっぱいのまちづくり

市民の皆さんとの協働の下、まち中に緑を増やす「花いっぱい運動」。生ごみから作られた肥料を使用して育てられた60種類以上の花苗を市内各地に配布し、住民どうしの交流と安らぎの場を広げています。

道路照明灯等のLED化

今年度内に既存の道路照明灯や公園灯約1,300基をLED化し、省エネルギーによる環境負荷の低減や電気使用量の削減を図ります。

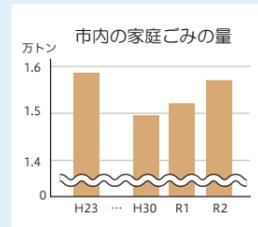
地球温暖化対策設備等設置費補助

二酸化炭素の排出を抑えるため、自然エネルギーを利用した住宅設備の新設・更新をする際に補助金を交付します。



市では改定蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、SDGsと連携した施策を進めています。ここでは、循環型で環境にやさしいまちづくりに向けて取り組んでいる事業の一部を紹介합니다。

～次世代にも良好な環境を 蕨戸田衛生センター～
混ぜればごみ、分ければ資源の精神を忘れずに



(上)昨年度のごみが増えた要因の一つとして、外出自粛により宅配のダンボールが増えたことがあげられます

蕨 市から出る家庭ごみの量は、10年前と比較すると減少してはいるものの、新型コロナがまんえんしてからは生活様式の変化もあり、増加傾向にあります(右グラフ)。

こうしたなか、蕨戸田衛生センターでは、ごみの減量化・資源化に向けて、生ごみと花苗交換事業や再生家具販売(お知らせ版6頁)などを通じた市民への意識啓発、ごみの搬入を通じた事業者への協力要請などを実施しています。

また、ごみ焼却炉の熱を利用して発電を行い、施設の運転に使用

しているほか、余剰電力を民間企業に売電し、公共施設に安価で供給。更には、現在進めている焼却炉の改良工事により、排ガス中のダイオキシン類濃度の大幅な低減や省エネルギー化を実現します。

今後も循環型社会を構築していく上で更なるごみの減量や資源化が重要です。皆さん一人ひとりのよりよい環境づくりへのご協力をお願いします。なお、ごみの分別については、「ごみの分け方・持ち出し方」(右二次元コード)をよくご確認ください。



— みんなの選択で未来の明るさが変わる —



うに生産された製品なのか調べることは一人ひとりができること。一人ひとりができることはいくつでもあります。持続可能な社会というのは、何十年と地道に作り上げていくものです。一人の100歩より、100人の1歩。明るい未来を創るのは私たちです。

現代を生きる私たちには知識としてではなく、自分自身の行動として、今まで以上に「モノをたいせつ」にすることが求められています。愛着を持って、思い出とともに大事にしていくこと。無駄遣いをせず節約すること。どのよ

この取材を通じて実感したのは、学校現場はもちろん、さまざまな場を通じて、多くの人がSDGsについて、既にご存じだということでした。しかし、日本のリサイクル率は諸外国と比べて低く、ごみの焼却割合は世界一。これもひとえに日本は恵まれているからこそ、なくしたから買い直す、少し汚れたから捨てるなど、物をぞんざいに扱っているからではないでしょうか。

かつて、宇宙船地球号(※)という概念を提唱したアメリカの建築家、バックミンスター・フラーはこんな言葉を残しています。「人間は知りすぎるぐらい知っているが、行動はあまりに少ない」。